能塚（のうづか）たえこはお約束します

子育て日本一
福祉の心で元気な宇治を

1
- 子どもの医療費は小学校卒業まで無料に
- 中学校給食の実施
- 雨漏り・臭いトイレなど校舎の改修
- 30人学級の実現
- 保育所待機児ゼロへ

子ども医療費助成の拡充を求め、お母さんたちが繰り返し請願書を提出してきましたが、いつも民主・自民・公明が反対。その結果、宇治が府南部で一番遅れてしまいました。

2
- 高い国保料など公共料金の引き下げ
- 敬老祝金やあん摩・鍼灸治療助成事業など、切り捨てられた高齢者施策の復活

市民から引き下げを求める請願・要望にいつも民主・自民・公明は反対し、宇治市の国保料は10年間で1.5倍になり、府内15市で一番高くなってしまいました。2010年度（7億5千万円）も、2011年度（6億7千万円）も大黒字なのに引き下げに使おうとしません。
一般会計からの繰入も宇治市は府内で最低です（府内繰入平均額5817円、宇治市598円）。

地域経済の活性化
若者に仕事を

3
- 学校、保育所の改修など公共事業は地元業者へ優先発注
- 住宅リフォーム助成制度で地域の仕事おこし
- 公契約条例で時給1000円以上へ
- 地元商店を支援し、歩いて買い物できるまちづくりを
- 宇治茶のブランド化や歴史都市宇治の良さ生かした観光の支援で宇治の個性を発揮

この10年間で、市内の商店は3割以上、商業従事者も1割近く減少してしまいました。
人口も流入より流出が多く、特に青年の流出が増加しています。
後継者不足で茶畑も畑も減少。大型店の相次ぐ出店で地元商店が消え、車がないと買い物に行けないまちに。

住みよい街 災害に強い宇治を

4
- 市民の足を守るバス路線の維持、利用しやすい公共交通網の充実
- 集会所は、今まで通り直営にし、民間集会所の支援を拡大
- すべての被災者の生活・営業の支援、治山・中小河川の整備を

被災地を調査

全国でも近隣市町でも、補助金を出して市民の足（バス運営）を維持していますが、宇治市はゼロ。
バス事業者が、赤字と補助金がないことを理由に13路線の廃止を申請しましたが、
市は路線短縮を提案するだけで補助金はゼロのままです。

市民の声を聞き国・府にしっかり発言

- 住民が宇治市を訴え裁判にまでなっている開浄水場の廃止問題は白紙に戻します。
- 消費税増税ノー、原発ゼロを願う、市民の声を発信していきます。
- 宇治の豊かな自然を生かし、太陽光発電などの再生可能エネルギーの普及に積極的に取り組みます。

国会では、民主・自民・公明3党が密室で消費税増税と年金削減などの社会保障の切り捨てを決め強行。消費税増税は暮らしも経済も壊し、財政再建もできません。

54基もの原発をつくってきた自民、福島原発事故の収束の目途もたたないのに原発再稼働に突き進む民主。国民の願いに背を向けています。

財源はあります

➡宇治市は府内トップクラスの財政力。一般会計（約600億円）の活用を工夫すればできます。

➡国保会計は2年連続の大幅黒字です。